

平成22年度 第3回埼玉県立図書館協議会会議録

◇ 日 時 平成23年2月17日(木) 午後2時～午後4時30分

◇ 会 場 久喜総合文化会館 視聴覚ライブラリー室

◇ 出席者 (1) 出席委員

木下 通子委員	秋本 敏委員	高野 津代子委員
松山 妙子委員	佐藤 淑恵委員	大井 むつみ委員
鬼頭 宗範委員	野口 高一委員	坂西 友秀委員
田上 智委員		

(2) 図書館職員

【市町村支援部】

吉田副参事

【県立浦和図書館】

小川館長	井田副館長	東城副館長	陣内教育主幹
千吉良主席司書主幹	荻原司書主幹		

【県立熊谷図書館】

岸本館長	橋本副館長	渡辺教育主幹
------	-------	--------

【県立久喜図書館】

樋田館長	豊崎副館長	藤倉担当課長
------	-------	--------

◇ 会議次第

1 開 会

[久喜図書館 豊崎副館長]

2 あいさつ 県立久喜図書館 樋田館長

3 会議の公開について議決

傍聴者1名入場

4 平成22年度第2回会議録報告

会議録の報告があり、承認された。

5 会議録署名委員の指名

会長が、野口委員と坂西委員を指名し、了承された。

6 議 事

(1) 県立図書館ウェブサイトの見直しについて(報告)

[浦和図書館 荻原司書主幹]

資料1に基づき、県立図書館ウェブサイト(トップページ)の見直し内容について説明。

【質疑等】

- 委員／・ものすごく改善された。全く違うようなホームページになった。絶賛に値すると思う。
- 委員／・これはいつから見直しを行うのか。
- 事務局／・こちらで御意見をいただいて、また職員からも意見を聴取しているので、これらを反映し、できれば3月中には行いたい。
- 委員／・今後どういう周期でホームページをリニューアルしていくのか。
- 事務局／・その辺はまだ詰めていない。今回見直しを検討したのはトップページだけであるが、この後ろにはたくさんコンテンツがある。これらの整合性を図って整備していくことが次の段階で必要だと思っている。その後に、新しいサービスなどを追加していくことになると思う。
- 委員／・国会図書館のホームページは外注してプロが整備しているが、これはプロが作成したのか。
- 事務局／・職員である。
- 委員／・上の方に3館の写真があり、「埼玉県立図書館のご案内」、「埼玉県立図書館について」とある。ご案内というのは何となくイメージがつくが、「埼玉県立図書館について」というのは、例えば「埼玉県立図書館の運営」などの見出しの方がよいかと思う。
- ・バナーの一つが、黄緑のバックに鶯色の文字になっており、見にくいので御検討いただきたい。
- 委員／・本を探すところがもう少し大きい方がよい気がする。映画会や資料展のバナーをクリックすると、その情報が表示されるので、バナーの下に表示されている情報はいらぬのではないかと。バナーを生かしてすっきりさせたほうがよいと思う。
- ・ブログはあった方が楽しくてよいが、更新していけるのか。
- 委員／・県のホームページなどを見ると、文字が多くて見る気がなくなるというのが率直な意見であるが、見直し案はクリックしてみようかなと思うページになっているかと思う。まだ項目が多い気がするので、もう少し絞ったほうがよいと思う。
- 委員／・館長の顔を載せなかったのはなぜなのか。建物よりもどんな館長でどんな顔をしているのかの方がインパクトがあると思うが、何か理由があるのか。
- フェイスブックというのが今はやっていて、これは、自分の写真も載せるし、実名も載せる。
- 浦和図書館の写真をクリックすると、館長の顔が出てくるということになると、ほとんどリアルに近くなる。かなり楽しいのではないかと。館長のメッセージは入っていないのか。
- 事務局／・メッセージについては、例えば浦和図書館であれば、課題解決を支援するという意味で、ビジネス支援サービスをやっていますとか、こういう映画会をやっていますのでどうぞお越しくださいという中身に含まれている。だから改め

てメッセージを入れても他の項目とダブってしまうので、特にメッセージとしては入れなかった。あえて入れるというお話であれば、メッセージは入れる余地はあるかなと思う。

- 委員／・入れるタイミングとして、館長が替わった時が一つのタイミングだと思う。2年3年ずっと載せるのは飽きてしまうと思う。
- 委員／・何でこんなに字が多いのかと思ったら、「何とかのお知らせ」という枠が多いと思う。ビジネス支援とか健康医療情報とか子ども読書支援は、それぞれ売りの図書館があるので、そのバナーを大きくし、どこの図書館が担当しているかはっきりと分かるようにした方がよい。
- 委員／・分かりやすく、見やすくなったがもう少し楽しくしてもいいのではないかなと思う。キャッチコピーにしてもまだ堅いと思うし、必要情報は分かるが、あまり見たことがない人が見て、もうちょっと見てみようという柔らかさがほしいと思う。あまり図書館になじみがない、あるいはこれから使いたいという人に見てもらえる機会となればと思う。
- 委員／・「重要なお知らせ」とあるが、どういう内容を掲載する予定か。
- 事務局／・想定しているのが、特別整理期間のお知らせなど、閉館・休館に係わる内容やシステム障害情報等をイメージしている。
- 委員／・システム障害情報などはあまり重要ではなく、下位に置いた方がよいかなと思う。
- 委員長／・デジタルライブラリーについて、これは埼玉県図書館が全国で唯一持っているところで、かなり貴重性がある。そこをもう少し売りに出せるように、単純に「絵画、貴重書、貴重雑誌」と表示するよりはもう少し工夫がほしいかなと思う。
- ・スポンサー広告について、県の広報誌には掲載されているが、県のホームページに広告を入れなさいとかそういうことはないのか。
- 事務局／・県のホームページにはスポンサーのバナーがある。図書館のページにも載せることについても、手続きを踏めば、可能だと思う。

(2) 平成23年度当初予算案について（報告）

[浦和図書館 陣内教育主幹]

資料2に基づき、平成23年度当初予算概要（案）及び県民生活支援のための県立図書館重点分野充実事業について説明

【質疑】

- 委員／・この資料は図書館協議会のために作ったのか。それとも既存の資料なのか。3館の予算合計額の中には、国の交付金の金額が入っていないのか。別のものと考えてよいのか。
- 事務局／・23年度の当初予算については、資料2のとおりである。住民生活に光を注ぐ交付金は今年度の2月補正予算ということで別のものである。

委員／・要は予算はじり貧の傾向だということが書いてあると思うが、言葉として記載されていない。数字の羅列なので、それでは資料の作りとしてはよくないのではないか。この資料は協議会に対して予算はこうなってますという説明なのか、あるいはこれに対して我々は仕方なく堪えしのぐのか、どうするのかというメッセージがないのか。

また、県の基本計画は「生きる力と絆」だが、それが図書館の施策、県立図書館関連事業予算の中でどう具体的に反映されているのか。

事務局／・生きる力と絆の埼玉教育プランの中には、基本目標の一つに「生涯学習とスポーツの振興」というものがあり、その中の施策の方向性に、「県立図書館について、県民一人一人の課題解決を支援し、本県の中核図書館としての機能を持つライフチャンスライブラリー化を推進します。」という文言がうたわれている。

その他の事業についても、この「生涯学習とスポーツの振興」という枠組みの中の事業である。

委員／・予算編成する上での基本的な考え方と今年度の特徴を教えてください。

委員／・どの予算がどれくらい減ったのかが資料だけだと読み取れないので教えてください。

・子ども読書活動・青少年地域活動支援事業が青少年げんき・いきいき体験活動事業と名称が変わったということだが、子ども読書という文言がどうして消えたのか教えてください。

・ライフチャンスライブラリー化事業の調査については、ここ何年か続けて予算がついているが、具体的にどんな調査のための予算なのか教えてください。

事務局／・前年度の予算のマイナス８パーセントで予算を編成してくださいという指示があり、今は新規事業は局でいくつかという状況なので、各図書館で新規事業を立ち上げるのは厳しい状況であった。

基本的にはこのキャップに収まるように利用者の方に迷惑がかからないように、節約で８パーセントを出したというのが大きなところである。浦和だと、施設の維持管理にかかる委託料等の見直し、熊谷だと資料費の購入数等を見直し、久喜の方も同じように資料費等の見直しなど、少しずつ節約し、キャップ内に収まるような予算編成をしたということである。

なかなかこんなふうにしたと胸を張って言えることがなく申し訳ないが、このような予算編成である。ライフチャンスライブラリー化事業についての予算は、電子図書館システム基本計画策定のための調査である。

事務局／・県立図書館のライフチャンスライブラリー化というのは、前回の知事選のマニフェストを受け、平成２０年にこれを実現するための基本計画が策定された。１１項目ほどの提言があったが、その提言をどういう形で実現するかということで、平成２１年以降、事業計画の策定を今進めている。ここ２年行ってきたが、従来のオーソドックスな図書館という形で初年度行い、さらにもっと突き抜けたアイデアがないかということで今年度検討した。

こういう中で今後のライフチャンスライブラリー化の柱の一つである電子図

書館について、来年度検討を深めたうえで、事業計画を策定し、再来年度以降、なんとか施設の整備計画の方に持っていきたいと考えている。

・青少年げんき・いきいき体験活動事業については、予算の上で主となる事業内容が事業名となっただけであり、子ども読書活動推進事業がなくなったわけではない。

委員／・今の話はいかに予算を事務的に処理したかという話で、そうではなく、どういうフィロソフィーの基で予算編成をしたのかを聞きたかったのである。

事務局／・新しい施策を打ち出していくことがなかなか望めない中、例年の図書館サービス運営費は、管理運営に係る部分、それ以外の図書資料費と2本柱になっているが、この2本柱の内容については、先程の説明のとおり、キャップ制により前年度対比で毎年抑えられている。そういう中で図書館としては資料費を確保したい。

こうした中で、国から先程説明のあった交付金事業が出てきた。当初予算の資料費が3館併せて約6千万円だが、この補正予算で3千万円ぐらい資料費がついたので、その分を合わせるとずいぶん大きな伸びになる。補正予算の中でなんとか資料費が確保できたかなというのが、来年度の予算の内容である。

委員／・青少年げんき・いきいき体験活動事業について、なんで図書館の予算に青少年体験活動事業が載っているのかと思われるのではないかと。

・相互貸借の推進事業について、来年度の予算は今年度と比べてどうなのか。

事務局／・子ども読書の件は、あくまでも資料の作りの問題なので工夫次第で記述を変更できると思う。

事務局／・相互貸借推進事業については、今年度とほぼ同じである。

当初は、大幅に増額したいと思っていた。現在、週1回市町村立図書館等を連絡車が回っているが、毎年予算が減らされており、これ以上減らされたら週1回は確保できない状態だった。

そこで、ライフチャンスライブラリーとして、どこにいても資料が手に入るという形にするために予算の増額を要求した。しかし、認められなかった。それでは少なくとも現状の予算は確保してほしいと要求し、今年度と同じ規模を確保することができた。

委員／・県立高校の司書の立場として、県立図書館の協力車にはいつもお世話になっていて、ありがたいと思っている。今ある予算の中で、今ある項目を全てやろうとするのは無理がある。今ある事業の中の何かを削ってこちらにもっていくということも大きい改革の中では必要だと思う。ライフチャンスライブラリー化も調査ばかりしていてそれにお金がかかっているような気がする。

委員長／・県立図書館関連事業でいうと、半分近くは緊急雇用に関する予算である。それを除くと限られた予算の中で大変苦勞なさっている。県内の図書館協力については県立図書館資料相互貸借推進事業などが下支えしている、というのが現実である。これを維持していただき、新たなことを検討いただいているということで私としては評価したいと思っている。

ライフチャンスライブラリー化事業は、残っていること自体が大事なことだと思っている。厳しい状況で、箱ものは作らないという知事の考えは変わらない。密かに来年度の予算について、選挙の年ということもあり、もう少し大きくなれないかと期待していた。しかし、私は逆に残っていることの方が貴重なのだと考えている。

・来年度の予算の資料については、一覧表を出すだけでなく、もう少し前年度との比較とか、ここがこういうことだということを文言的に入れていただければ分かりやすいと思う。

委員／・3館ともかなり老朽化しているが、大きな修繕工事が必要になった場合の予算措置はどういう仕組みで行われるのか。

事務局／・現在、県立熊谷図書館の空調の配管が壊れて修理をしており400万円以上かかるが、そういう時は図書館の当初事業費とは別枠で措置される。

委員／・相互貸借の推進事業については、根幹的な事業であり、埼玉県はどこで借りても相互貸借がきちっとできているというのが誇れるところだと思う。再来年度もがんばっていただき、続けていただければと思う。

事務局／・搬送量は全国でも一番多いと思う。頑張りたいと思う。

(3) 今後の図書館運営について

田上委員から資料3に基づき、同委員の提言について説明。

【質疑】

委員／・中長期政策の策定はなぜないのか。

私は電子図書館について興味があるが、用語の使い方がまずいものがある。県立図書館ではハイブリットという用語を使っているが、これは一つの個体の中に二つあるということである。千代田図書館も県立図書館も目指しているものは並列的に紙とイーブラリーを所有することであり、そうすると、デュアルとかデュプレックスということになる。こういうものの中長期計画はなぜないのか。何年ごろに電子図書館化するのか。

事務局／・何年後とは申し上げられないが、来年度中には事業計画を立ち上げたい。問題はハードをどうするかということ。現行の3館体制でいくのか、1館を使うのか、あるいは新たに作るのか、いろんな意見があり、その方向が出ていない。

委員／・大企業になればなるほど長期計画があるが、中小企業は何もない。そういう意味では中小企業に近いのかなとの印象を受けた。早く策定していただきたい。

・公募委員を2年間やってきたが、図書館に関する知識も経験もなくゼロからのスタートであった。公募委員に対してこれだけは読んでほしいというものを指示してほしい。

・ホームページの見直しはありがたい。

・県立図書館は、民間と比較するとあまり競争する必要がないのか。

事務局／・民間企業の場合は競争相手が明白にあるが、県立図書館の場合は、他の図書館と同じ利用者を奪い合うという競合関係にないというのは確かだろうと思う。そういう中でも、県民サービス向上のため、利用者の満足度を計数化して計っている。蔵書冊数であるとか、接客態度であるとか、施設面であるとか、いろんなことについて努力しなければいけないと思っている。

他の都道府県図書館と比較した中で、いいところについては取り組んでいこうと思っている。以前委員の方からご指摘のあった、開架の部分を増やすことや、コミュニケーションを図るスペースの設置、あるいは計画策定についてなど、現状でやろうと思ってもやれないことを、今後ライフチャンスライブラリーの事業計画策定の中で取り入れたいと思う。

委員／・こちらから言えば回答をいただけるが、その前にかゆいところに手が届くという図書館になってほしい。最初の協議会の時に推薦図書ということで話があれば助かったなと思う。こちらから言う前にやっていただきたい。

・生きる力を育む施策として、県立図書館はどんな役割をしているのか。

事務局／・生きる力というのは、県民が自分に与えられた課題についてどう対応していくかという視点があると思う。県民が課題解決のために図書館に足を運び、健康支援なり、ビジネス支援なり、自分が知りたいという本について入手する。そういう形での対応が図書館に求められていると思う。これについては、レファレンスの充実、図書の充実、そういう中で期待に応えられるように努力するのが図書館の役割だと思う。

委員／・例えば、館長なり司書の方が人生相談も受ける、生きるためのコンシェルジュのような役割を果たせるのか。やはり学校や図書館はモラトリアムである。世の中は大変である。社会の厳しさを学校の先生が教えられるのかと思う。単に国語や算数を教えるのではなく、どう生きていくかという人生に対する回答を先生ができるのか。図書館の館長や司書ができるのか、そういう疑問がある。

事務局／・かなり大きな課題であると思う。現在の3館体制の中でやれと言われてもなかなか難しいというのが正直なところである。ただ、委員がご指摘の内容については、新生の県立図書館ができる過程の中で十分検討に値すると思う。

委員／・図書館がインターネットに勝てるかということだが、インターネットの力はすごく、グーグルが世界中の図書を分類しようとしている。人が図書館に行かなくても、オンラインでパソコンから全部読めるとなると、既設の図書館はいらなくなるのではと感じる。どのようにインターネット社会に対応した図書館にするのか。

事務局／・確かに図書館はいらなくなるのではという議論はあり、その中で県立図書館として生き残るためにどうしたらよいか、県立図書館としてどういうサービスを提供したらよいか、そこが最重要課題と考えている。はたして閲覧スペースはどれくらい必要か、今は3館あるがそれが1館になった場合、近い遠いということがどうしても出てくるが、県立図書館としてはどういうサービスを提供しなければならないか。それがインターネットでのサービスだという話もある

が、現在、著作権の問題もあり、図書館にサービス提供しているのは二つの会社だけで、タイトル数も千から二千タイトルぐらいの本しかない。現行で電子図書館に持っていくのは難しいが、今後どうしていくのかも含め、来年度調査委託を実施しながら検討し、来年度中には事業計画を立ち上げたい。

委員／・デュアルとかデュプレックスというように紙と電子を併存させるのか、あるいはハイブリットで一部紙で一部電子なのか、どちらにするのか。

事務局／・両方並立という考え方である。

委員／・そうするとライフチャンスライブラリー化の提言の中にハイブリット化の推進という言葉があるが、これは韓国のIT会社が使った言葉であり、言葉としてはいただけない。私が思うに、将来の図書館人はITに詳しくないとやっていけないのではと思う。図書館の司書はITコンサルタントになるのではないかという考えさえ持っている。

委員長／・ハイブリットという言葉は、図書館界の中では普通に使われている。文科省がまとめた提言の中にもハイブリットという言葉が頻繁に使われている。インターネットとの関係も、インターネット自体が変わっていきだろうし、それに応じて図書館も変わっていく。

図書館の活動の中には、子どもの読書を育てていく活動や人間が人間に語りかけていくことなど、機械に任せられない部分がたくさんある。資料と出会うという部分では、ますます電子化されるであろうと思う。国会図書館がそういう方向に進んでいる。こういうことを含めて、県立図書館が遅れないように対応していくことを、本日の提言を踏まえて進めてほしい。

7 閉 会

〔久喜図書館 樋田館長〕